

- ◆ 「やねだん」は、高齢化が進む鹿児島県中山間の地域集落。豊重氏の館長就任後(平成8年)、「補助金は、制約が多く、自立心が失われ、真に地域のためにならない」との考えから、サツマイモ・トウガラシの生産等による**自主財源作り**を進め、高齢者等地域住民のニーズに応じた**サービス提供**、**地域の再生**を目指す。(政府広報: <http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg11332.html>、<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg11930.html>)
- ◆ 地方創生に対し、各地域が**それぞれの特徴を活かした自立的で持続的な地域づくり**が求められる中で、地方公共団体等から「やねだん」の、**補助金に依存しない取組**を高く評価する声あり(※ 27年1月に石破まち・ひと・しごと創生担当大臣が「やねだん」を訪問、27年2月に小泉内閣府大臣政務官(当時)が東京・霞が関にて豊重館長と対談)。
- ◆ 鹿児島財務事務所の有するネットワークを活用し、当所を起点に「やねだん」の取組を**情報発信**するとともに、**農林水産省等の地方支分部局との連携**により、その取組を支援していく。

1. 「やねだん」の概要

(1) 豊重館長就任までの経緯

- 鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落(やねだん: 鹿児島弁で「やなぎだに」の意)は、120世帯およそ300人が共存する、全国でも**高齢化の進んだ中山間地域の集落**(高齢化率は30%超)。地域活動や婦人部・青年部もなく、住民の約8割は**地域の活動に無関心**だった。
- このような集落の状況に問題意識を抱き、平成8年に柳谷地区の自治公民館長に就任した豊重氏は、「**行政に頼らず、自主財源を作り、地域再生を果たす**」といった理念の下で地域づくりに着手。
- 「**目配り、気配り、心配り**」をモットーに、住民に対して**3年間粘り強く働きかけ続ける**ことで、「地域でできることは地域で行う」という**住民自治の理念が住民に浸透**。
- また、集落の持続的な運営のためには「**企業会計**」に即した運営が必要との考えから、**原価、損益分岐の考え**を住民に広めた。



豊重館長



芋焼酎「やねだん」

＜豊重館長の経歴＞
地元(鹿児島県串良町)の商業高校を卒業後に上京し、東京都民銀行に入行(昭和35年)。11年後にUターンし、うなぎの養殖を開始(昭和46年)。うなぎ専門店を創業(昭和56年)。

(2) 「やねだん」の特徴

① 住民自治

「**地域でできることは地域で行う**」という理念のもと、住民が営農活動に参加。「やねだん」では「**人は宝、『人財』と、人を地域づくりの重要な資源と位置付け**」。

② 自主財源の確保

「**補助金に依存するとアイデアが欠如し、自立心が失われ、真に地域のためにならない**」との考えから、サツマイモ・トウガラシの生産や芋焼酎「やねだん」の販売を通じて**自主財源を確保**(年間600万円程度の収入)。

③ 還元(地域サービスの提供)

住民が**自主財源確保のための営農活動に参加するインセンティブ**になるよう、運動遊園の整備、緊急警報機的全戸設置、高校生クラブ活動費や全戸への**ボーナス(1万円)の支給**などを実施。

これまでの地域サービス

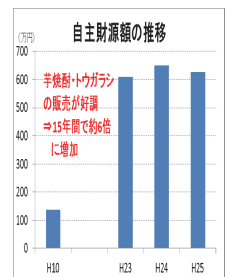
環境整備等 (1500万円)	空き家整備(芸術家受入れ7名)
運動遊園	全戸に無線放送
風力発電	
福祉関係 (420万円)	緊急警報機(週検診対策)
	シルバーカー
	聴感加齢・防犯ベル
	85歳以上の高齢者に毎年1万円
青少年育成 (534万円)	寺子屋
	高校生クラブ活動費
その他 (464万円)	全戸に1万円ボーナス
	各種交際費贈答金等

2. これまでの取組の成果等

- 耕作放棄地を利用した**サツマイモ生産・販売**、サツマイモを原料とした**焼酎(やねだん)販売**、**トウガラシ(※)生産・販売**(韓国にも輸出)により、**自主財源として約600万円の収入を確保**(平成26年)。

(※) 他の生産地に比し、無農薬生産の安全性やこれに伴うブランドイメージから、国内外から「やねだん」のトウガラシは大変魅力的との声。キロ1万円で年間約100キロを販売。

- 福祉目的から、前後開脚器具等を置く**運動遊園を整備**したところ、住民の**運動機会が増加**。寝たきり高齢者も無く、**75歳以上の医療費等が、鹿屋市内の他の集落より年間約4割以上少ない**など、高齢者の健康増進に寄与。
- **地域再生リーダー養成**を目的に、平成19年に「**故郷(ふるさと)創世塾**」を創設(18回開催。卒業生は地方公共団体職員等約717名(全体の約8割が地方公共団体職員))。



＜地域活性化にあたり重要なこと(豊重館長からのメッセージ)＞

- ・ 自主財源を捻出する取組は、「**地域ビジネス**」であることから、数字を組み立てる能力等の**ビジネス・マインドが必要**。
- ・ 行政マンが「**コーディネーター**」にならないと地域再生は困難。**行政マンをパイプ役・ジョイント役・コーディネーター役として育成**することが重要。
- ・ 地域・集落等が、まずは**補助金だけを持ってきて、それから活動を決める形**になっていることは問題。他方、「**活動補助**」のための補助金については、**集落活動進化の後押しのために必要**。

3. 今後の課題と鹿児島財務事務所の対応

＜今後の課題＞

- 自主財源確保の新たな柱となる**トウガラシの需要増加**に対応するため、栽培から加工商品開発まで行う**生産体制の構築**。
- 地域づくりに必要な、**企業経営マインドをもった人財育成**(「故郷創世塾」)の強化(講師陣の充実など)。

＜今後の鹿児島財務事務所の対応＞

- 当所の有するネットワークを活用し、当所を起点に「やねだん」の取組について**情報発信**する。また、**農林水産省等の地方支分部局との連携**により、「**故郷創世塾**」への講師派遣等、「やねだん」の取組を支援していく。
- 九州財務局に対し、「やねだん」から「**故郷創世塾**」での農業会計講義実施の打診があり、現在協議中。今後、「**故郷創世塾**」への講師派遣に向けて協力していく。